

「令和6年度 第3回E B E協議会」

日時：令和7年（2025年）1月31日（金）13:15～16:00 ZOOMによる遠隔会議

参加者：管内小・中学校及び公立高等学校の教諭等 計57名

令和7年1月31日（金）にWeb会議システム（ZOOM）を活用して、「令和6年度 第3回E B E協議会」を開催した。

本協議会は、小中高12年間を一体的に捉えた児童生徒の学力や学習状況等の分析結果を踏まえ、組織的な授業改革や学力向上等に向けた校内体制の整備、具体的な授業改革の方法などに関する説明や協議により、宗谷管内の児童生徒に必要な資質・能力の育成に資することを目的としており、今年度3回目となる今回は、これまでの協議会での説明・実践発表・協議を踏まえ、「自校の取組の改善・充実の手立て」を考える機会とし、残りの期間や次年度への取組に繋げるため実施した。

○説明

永野間義務教育指導班主査が、宗谷管内の児童生徒の学力の状況や課題、改善の方向性について、宗谷管内学力保障プランの3つの柱【Ⅰ検証改善サイクルの確立、Ⅱ授業改革の推進、Ⅲ家庭・地域、学校間の連携の推進】に基づき説明。説明を通じて、組織的に取り組む授業改革や検証改善サイクルの確立に向けた組織的な取組の方向性等について共通理解を図った。



○実践発表 「各種調査結果を活用した組織的な授業改革等に係る自校の取組について」

発表① 北海道浜頓別高等学校教諭 小原 哲 様

- ・これまでの取組の振り返りと課題について紹介。
- ・テストの前後に、事前・事後面談を実施し生徒へのモチベーションを上げてきた。結果が出ると気持ちが次に繋がるため、「やる気」の仕掛けづくりが大事。
- ・「家庭学習時間の増加」のために、①生徒のモチベーションの向上、②教職員の適材適所による役割分担でプロジェクトチームを推進、③業務の選択と集中に取り組んだ。
- ・幅広い学力層の生徒へのアプローチがさらなる課題。

発表② 利尻富士町立利尻小学校教諭 小野 文雅 様

- ・小中併置校の小中一貫教育について紹介。
- ・①「見える化」として、全国学力・学習状況調査の個別分析結果を教職員、子ども、保護者へ共有し、振り返りに力を入れる。②「対話」として、自校9年間で大事にしたいことを話し合い、ピクトグラム等を活用して示した。③「未来づくり」として、授業改善や家庭学習の見直し、読書推進での改善策を進めている。
- ・次年度は、学校のグランドデザインを基に教職員間で共有し、さらに追究していきたい。

発表③ 稚内市立潮見が丘中学校 主幹教諭 阿部 諭 様

- ・潮見が丘地区の小中連携について紹介。
- ・小中9年間を見通した円滑な連携・接続を目指している。
- ・小中の教職員が学び合う研修の機会を創出。調査の分析や時間割の共有、いじめ・不登校等の生徒指導面での課題も9年間を見通して一緒に考える機会を設けている。
- ・小6から中1への円滑な接続のため、部活動や授業の体験、行事の見学等積極的に交流。PTA 同士の交流も実施した。
- ・児童会・生徒会の合同の取組も行っており、絆づくりメッセージコンクール等、小中一体となった取組を模索中。

○協議



実践発表後、校種別のグループに分かれ、「児童生徒に必要な資質・能力の育成に向けて、学校が組織的に取り組むことについて」意見交流が行われた。

<まとめ>

松浦教育支援課長が、実践発表や協議での様子を踏まえ、児童生徒に必要な資質・能力の育成には、小中高12年間を一体的に捉え、校種を超えた学校間で、あらゆる分野での接続が重要になるとまとめた。また、児童生徒の学びの機会として授業と家庭学習を往還させるICT機器の活用を促した。